

- 福島第一原子力発電所では、事故の早期収束に向けた取組をすすめておりますが、事故後に発生した瓦礫等や、汚染水処理により発生した水処理二次廃棄物の保管をより適正に行うため、以下の施設を設置する計画です。

### 増設雑固体廃棄物焼却設備

構内に一時保管されている可燃物の保管量低減の加速、及び火災リスクの低減を目的として設置します。

処理容量: 95t/日

運用開始: 2022年3月

<進捗状況と今後の見通し>

- ・系統試験(乾燥焚運転)において、ロータリーキルンシール部の摺動材に想定を上回る摩耗を確認
- ・本対策として、ロータリーキルンシール部の構造を変更し、実機試験により、摺動材の摩耗等に問題が無いことを確認
- ・現在、系統試験及びコールド試験まで完了
- ・今後、ホット試験を経て、2022年3月に竣工予定

### 焼却炉前処理

増設雑固体廃棄物焼却設備及び雑固体廃棄物焼却設備の効率的・安定的な焼却運転を行うため、焼却対象物を焼却前に破砕処理することを目的として設置します。

処理能力: 再検討中

運用開始: 2025年度

<進捗状況と今後の見通し>

- ・廃棄物の発生量実績及び予測に基づき、前処理対象物の見直しを実施  
(伐採木、可燃性瓦礫、使用済保護衣等⇒可燃性瓦礫)
- ・上記見直しに伴い、設備仕様を再検討中

### 減容処理設備

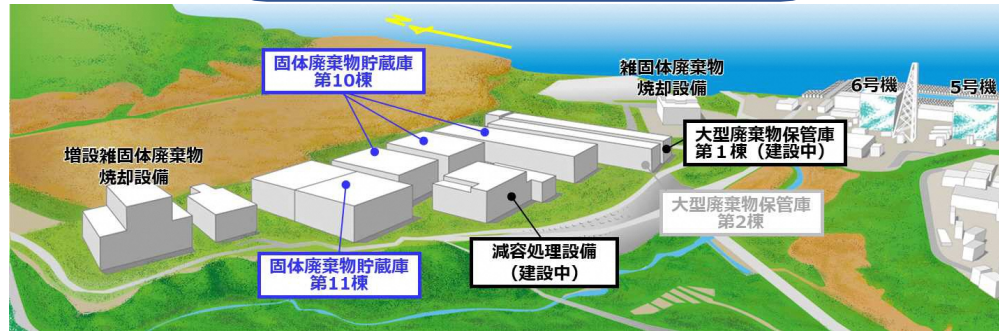
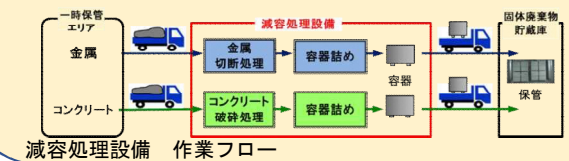
コンクリート・金属等の瓦礫類を減容(切断・破砕)することによる保管量の低減を目的として設置します。

処理能力: 金属: 約60m<sup>3</sup>/日、コンクリート: 約40m<sup>3</sup>/日

運用開始: 2022年度

<進捗状況と今後の見通し>

- ・2020年9月から準備工事を開始し、2021年4月に着工
- ・2021年10月、基礎工事が完了し、現在、鉄骨及び屋根工事を実施中。



設備および施設設置イメージ図

### 大型廃棄物保管庫

水処理二次廃棄物は形状が大きく重量物であるため、固体廃棄物貯蔵庫とは別に、水処理二次廃棄物のような大型の廃棄物の保管を目的に設置します。

保管エリア面積: 第1棟: 約0.4万m<sup>2</sup>

第2棟: 約0.8万m<sup>2</sup> (今後検討)

運用開始(第1棟): 2022年度以降←工程調整中

<進捗状況と今後の見通し>

- ・2020年6月に本体工事に着手し、外壁及び屋根工事実施中
- ・クレーン、使用済吸着塔保管架台及び建屋の耐震評価を実施中のため、全体工程は調整中



本体工事状況

### 増設固体廃棄物貯蔵庫

瓦礫類や焼却・減容処理した固体廃棄物を容器等に収納し、屋内にて安全に保管管理する目的で設置します。

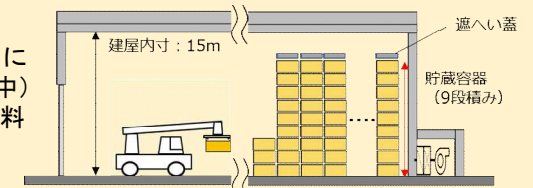
貯蔵容量: 全体で約19.5万m<sup>3</sup>の貯蔵庫を設置

・固体庫第10棟: 約8万m<sup>3</sup>、固体庫第11棟: 約11.5万m<sup>3</sup>

運用開始: 2022年度以降 順次運用開始予定

<進捗状況と今後の見通し>

- ・固体庫第10棟: 実施計画は2021年11月に申請し、現在審査中(耐震評価の確認中) 2021年12月より地盤改良工事のうち試料採取作業を実施
- ・固体庫第11棟: 設備設計中



第10棟 容器運搬・保管イメージ